

# パンタナル通信

南北米福地開発協会

会報

2008年5月1日

56号

第8回国際協力青年ボランティア隊、8月20日、インディヒナの村派遣決定！！



学校を建設したエスペランサ村の植樹と教育資材の提供を中心に活動を展開する予定。

二〇〇八年度の国際協力青年ボランティア隊の活動の具体的な内容を南北米福地開発協会神山会長ならびに飯野事務総長が現地、パラグアイ国、チャコ地方、エスペランサ村を三月に訪れ、アスンシオンで事務局にいる三石現地受け入れ責任者と協議した結果、今年はディアナ村とエスペランサ村に当協会が二〇〇三、四年に建設した学校を囲むニームの木を植樹と村の健康維持のため栄養価の高い植物であるモリンガの植林をすることになりました。ニームの木は常緑樹で乾燥地に強く、害虫に侵されない丈夫な木で、木は殺菌力があり、木の小枝で、歯を磨き、虫歯の予防になるだけでなく歯槽膿漏などの予防にも大変効果がある健康にとっても貢献する木で村の薬局とインドでは家庭で重宝がられています。

また、木が成長すれば二メートルの常緑樹で暑いパラグアイのような所に最適で、木陰をつくり、学校の周りに植えれば、周りの気温を低くし、学校の教室が勉強に最適な環境を整える事ができると期待されます。

モリンガの木は僻地に住む子供たちがとかく必要な栄養が不足しがちになり、病気にかかりやすくなることを防ぐ、体に有用な成分が多く含まれています。カルシウム、亜鉛、アミノ酸が豊富に含まれ、栄養失調の子供に葉の粉を少し入れ、通常の食事に混ぜるだけで、栄養状態が改善されます。モリンガを育てて葉を収穫するのは簡単です。小枝に十数枚の若葉が付いており、木の成長も早く、六ヶ月で四メートルにもなります。(二pに続く)



植えて半年目のモリンガ(レダ)

モリンガの特徴には栄養が豊富であるばかりでなく、インディヒナの村のような僻地で最も大きな問題となる水の浄化を助けることにあります。現在でもパラグアイ川沿いのインディヒナの村では川の水を直接飲んでおり、そのために衛生上の問題で、特に弱者である子供、老人が病気になることが問題となっています。

都会では水の汚染部分を硫酸アルミニウムで凝固させ、凝固させたものを取り除いています。しかし、インディヒナの村ではそのような方法を取らず、そのままの水を使っているのが現状です。モリンガの種の粉末は天然の浄化用資源として、体に優しい水を提供してくれます。浄化方法は簡単で、モリンガの種から核を取り出し、それを粉にし、川からとった水の中に入れ、数十秒棒でかき混ぜ、三十分ぐらい放置すると泥と汚染物が底の方にたまりま

上澄みのきれいな水を取り出し、太陽のもとに数時間さらしたのち、飲料水として用います。このような単純な方法で出来た水を使用すれば水から感染する病気の割合を八十九十五%減少できます。

日本においても平成十七年九月に行われた愛地球博で日本モリンガ協会が「世界の子供たちにきれいな水を」をテーマにモリンガの水浄化を紹介しておりました。汚濁水にパウダーを入れて水が澄み、きれいになっていく植物の威力に一様に驚いておりました。

今年の国際協力青年ボランティア隊の植樹活動がインディヒナの村のためになることと思いません。



パラグアイ川の水を直接飲む少女



ニームの木の植樹(レダ)

**国連が報告「ニームは二〇世紀最大の贈り物」**  
 二〇〇 四〇〇種類の害虫を防ぐ。  
 「途上国の自立支援に  
 ニームはセンダン科の常緑樹で和名をインドセリダンと言ひ、十五m 二十mにも成長する高木。花は白く、実は梅の実を少し小さくした程度の大きさ。インド原産で、乾燥にも強く砂漠地帯でも育つ。適地ならば三年目で実や葉を加工し換金できる。ニームは捨てる所がない。種子、ニームオイル(種子を絞った油)、花、葉、葉の汁、樹皮、樹皮から採れる樹脂など、それぞれに効能があり、内用、外用を問わず万能薬のように使われてきた。殺虫、防虫をはじめ、葉はお茶や入浴剤に、葉の汁を石鹼に混ぜたりもしている。細い枝は先を削って、抗菌歯ブラシとしてインドでは口に啜るのがポピュラー。その昔、お釈迦様は弟子達に「ニームで歯を清潔にするように」と戒律で説いていたほど。(新聞 環境農業 平成十五年二月十五付)

# 国際協力青年ボランティア隊の歩み



2005年 カトルセ・マジヨ村



2004年エスペランサ村学校建設

石原圭太郎（青年奉仕隊に参加して）

エスペランサは僕にとって、あまりにも特別な場所となった。僕の魂の一部を、エスペランサに置いてきたような気がする。今、僕の左腕にはエスペランサで子供から買った腕輪がかかっている。この腕輪をみる度に、僕はエスペランサでの時間へと舞い戻る。

エスペランサへ向かい、パラグアイ川を渡る時、わずかな不安を抱いていた。村人達は、自分達のような外から来た人間を受け入れてくれるのだろうか、子供達は素直に心を開いてくれるだろうか、と。しかし、他のどんな理由でもなく、僕とエスペランサの人々が、家族だからその地へ訪れ、奉仕するのだ、ということを思い、決意し直した。初めて会ったエスペランサの子供達は無条件に可愛かった。透き通るような目でこちらを見つめていた。大人達は少し不思議そうな表情だったが、あいさつをすると笑顔で返してくれた。すぐに打ち解け、彼らと仲良くなる事ができた。それが素直に嬉しかった。

学校建設の労働奉仕は想像を絶するものだった。土台となるコンクリートを打つ仕事だったのだが、体が壊れそうになりながら、ほとんど気力で乗り越えた。それを通して、現地の労働者達とより深く交わり、心を通わす事ができた。辛い労働奉仕を成し遂げることができたのは、メンバーとのチームワークとそれ故だと思う。日中は四十を超える環境の中で働き続ける彼らの体力と一生懸命さに、心を打たれた。辛い労働奉仕を成し遂げることができたのは、メンバーとのチームワーク

とそれ故だと思う。日中は四十を越える環境の中で働き続ける彼らの体力と一生懸命さに、心を打たれた。

しかし、最も心を熱くさせるのは、子供達である。彼らに少しでも笑顔で接していけば、満面の笑みで応えてくれた。あまりにも純粹で偽りのない彼らの笑顔に、もうノックアウトである。僕達の周りにはいつも子供達が居た。それで、どんなに労働で疲れている時でも、底知れぬ力が湧いてくるのだ。普段ならあの過酷な労働の後には間違いなく崩れ落ちると思うのだが、僕は男の子達とサッカーをやって走り回っていた。縄跳びや折り紙、日本語講座などを通して、子供達と深く深く交わっていった。折り紙の時など、折って欲しいと懇願して僕を取り囲む彼らのおまりの可愛さに、二本しか無い自分の手に悔しさを覚えた程だ。彼らは僕の弟、妹達だと思う。エスペランサを訪ねる時、村の人々は僕の家族だと頭で思っていた僕は、最後にはいつまでも一緒に居たい、紛れもない本当の家族の関係を感じていた。

エスペランサで過ごす中で、僕は生涯をここでおくっても構わないと真剣に思えた。むしろここに残りたいとも思った。ずっとここで、労働者達と汗を流し、子供達の笑顔と共に、彼らを見守りながら、美しく雄大な自然に育まれて生きようと思った。どれだけ彼らの心が清く美しかっただろう。為に生きるということを自然体で行っている彼らに、何度も感動した。

エスペランサの人々は、人間は素晴らしくいと僕に教えてくれた。（続く）

## 第8回 国際協力青年ボランティア隊員募集

南北米福地開発協会では、日本の若き青年指導者たちが、海外における奉仕活動やグローバルな体験を通して、社会奉仕や異文化の理解を学ぶ機会が得られるよう国際協力青年ボランティアを下記のように企画致しました。

期 間：2008年8月20日(水)～9月5日(金)  
(18日の出発から20日の出発に変わりました)

活動場所：パラグアイ、パンタナール地域

活動内容：

共同植樹活動及びインディヒナの村での文化交流、

レダにて奉仕活動、自然探訪、乗馬、釣り体験

首都アスンシオン訪問 世界遺産イグアスの滝見学

参加資格：18歳以上25歳まで(健康に自信のある男女)

参加条件 小論文(400字以内)提出

テーマ：「参加の動機及び将来の夢」 提出期限：6月30日

提出先：南北米福地開発協会

小論文に各紹介者の推薦文を添付すること

合格発表：7月5日 直接該当者に連絡致します。

募集人数：8名

参加費用：15万円

成田 アスンシオン往復航空チケット代は主催者が支援いたします。

(小遣い、海外保険、家から成田までの往復費用などは個人負担)

申し込み及び問い合わせ先：

南北米福地開発協会事務局 柴沼邦彦宛

放っておけば悪の方向へと向かっていくもので、抑制して教育しなければどうしようもないと、僕は感じていた。しかし、僕は知ったのである。人間は本当に素晴らしいと。エスペランサの子供達もすべての人々も、本当に良い人しか居なかった。それは僕にとって大きな衝撃だったのである。それで、教育分野を自分の使命と考えている僕だから、やはり教育は、子供達の持っているあまりにも素晴らしい本性を育てて伸ばしてあげることが重要だと、100%の確信を得るに至ったのである。それを感じた瞬間、どれだけ神様に感謝したか分らない。僕はこれから教育において、新しい出発をしようと思う。この期間、僕は人生観を大きく変えられた。未熟さ故、自分自身の小ささを感じると共に、神の子としての人間の素晴らしさや自然の美しさ雄大さに触れ、どれほど自分が可能性を持った素晴らしい存在なのかを痛感した。この経験は間違いなく最高の宝となって、僕の人生に輝き続けるだろう。



インディヒナの村での生活の一部

一日環境セミナー 御案内

日時 二〇〇八年五月十七日(土)

午前10時～午後3時

場所 南北米福地開発協会事務局

参加費 二千元(昼食込み)

研修内容

午前中

『地球温暖化と植樹活動の意義』

地球の緑を守る会 事務局長

戸石文夫

午後

『エコツーリズムの課題と未来』

南北米福地開発協会 事務局長

柴沼邦彦

南北米福地開発協会 事務局

〒二二二一〇〇〇一

神奈川県川崎市高津区

溝口二一十一十五

電話 〇四四一八二九一二八二一

Fax 八二九一二八二〇

会費納入 郵便口座

一〇一八 〇一七七六八〇四七一

代表 柴沼邦彦

EMAIL office@asd-nsa.jp

ホームページ http://www.asd-nsa.jp